

若手歯科衛生士が使うマイクロスコープの可能性

杉山幸菜

新百合ヶ丘南歯科

抄録

国内のマイクロスコープ販売台数は年々増加しており、以前よりも歯科衛生士が診療にマイクロスコープを取り入れやすい環境が身近になってきていると考えられる。

私は「歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士が同じ拡大視野で処置を行うことで、スムーズにチーム医療を達成することができる」との考えと指導の元、今から4年前、歯科衛生士になって2年目の時から日常診療で毎日マイクロスコープを使用している。

マイクロスコープを使い始めると、自分の処置を手指感覚だけでなく、視覚としても確認できる様になり、自分自身が安心して診療を行うことができるようになった。また、拡大視野を撮影記録し、自分の処置を客観的に考察することで、技術向上にも役立つと感じている。結果として歯科医師だけでなく、歯科衛生士もマイクロスコープを使用することで、患者さんにより安心して安全な歯科医療・メンテナンスを提供する事に繋がっていると考えられる。さらに、歯科医師、歯科技工士と同じ拡大視野で処置をすることで、私自身、チームの一員としてのやりがいを感じながら毎日楽しく仕事ができている。

今回、若手歯科衛生士がマイクロスコープを使う利点や活用方法について述べさせて頂き、これからマイクロスコープの導入を考える歯科衛生士の皆様の参考にして頂ければ幸いです。

略歴

2011年 鶴見大学短期大学部歯科衛生科 卒業

2011年 医療法人社団同仁会ワタナベ歯科医院 勤務

2016年 新百合ヶ丘南歯科 勤務